

事例7-1

取組名	「無尽」を生かした町会運営への寄与		
町会名	みなみげんち 南源地町会（第二地区）	町会 データ	・人口／197人 ・世帯数／122世帯 ・高齢化率／36.55% ・町会加入数／130世帯 ・班（隣組）数／4班
取組概要	○ 昔ながらの「無尽」を単なる慣習に留めず、町会運営の一部として機能させている。 ○ 「無尽」を通じた見守りや情報共有、本音の意見交換等が、円滑な町会運営を支えている。		

背景・課題

- ・ 町会活動に無関心な人の増加や高齢化の進展等により、町会役員の選出が困難になるとともに、高齢者等の見守りやお祭りの存続も課題となっている。

経過・取組内容

- ・ 月3回開催されている「無尽」が、町会運営の一部になっている。
- ・ 「無尽」は、参加者が会費を出し合い、飲食代を除いた残りを活用するもの。集めた会費の一部は積立てに回し、残りを必要な人が順番に受け取る。飲み会を兼ねた無理のない助け合いの仕組み。
- ・ 「無尽」には、①青年部、②一般の部（Ⅰ）、③一般の部（Ⅱ）がある。一般の部は、町会内の誰もが参加できる。
- ・ 参加年齢層は50～80代。現在は、女性の参加者なし。

① 自然な安否確認の場

「無尽」の席では、日常の変化を何気なく共有。「あその〇〇さん、入院したらしい」「最近、あの家は電気がついていない」など、特別な見守り制度を設けなくても、顔の見える関係性の中で、安否確認が自然に行われている。

② 町会内の大事な話が最初に出る場

町会内の課題や気がかりなことも、まずは「無尽」で話題になる。行事の進め方や地域の困りごと、町会運営への率直な意見など、正式な会議で

は出てこない、地域の「空気感」や住民の受け止め方を共有する場として機能している。

③ 腹を割って本音で話せる場

天神祭りが近づくと、話題は自然と祭りの運営へ。「神輿はもうやめた方がいいのでは」「担ぎ手が正直しんどい」など、非公式な席だからこそ、遠慮のない意見や本音が出やすい。

「本当はやりたくない」「断れなくて続けている」「正直、負担に感じている」といった、会議では出にくい本音を共有し、不満が溜まりすぎる前に「ガス抜き」ができています。



「無尽」の様子

成果・今後の展望等

- ・ 「無尽」は、公式な町会行事として位置づけられてはいないが、住民間の見守りや円滑な町会運営に寄与している。
- ・ 町会運営を持続可能にしていくためにも、意識的に残し、活かしていきたい。

【ポイント】

- ▼ 本音で語り合える交流の場（小規模・高頻度）を確保することで、町会運営の円滑化に寄与